

健全育成委員会活動報告書

担当：青森県高等学校PTA連合会

『 高P活動の更なるパワーアップを期待して 』

東北地区高等学校PTA連合会 健全育成委員長
(青森県高等学校PTA連合会会長) 葛西 孝之



令和4年度から2年間にわたる、健全育成委員会の事務局という大役を終えるにあたり、皆様に御礼を申し上げます。

コロナ禍での委員会運営さらに東北最北端での開催ということもあり皆様にはご不便をおかけしました。

遠路はるばる青森県までお越しいただいたみなさまに少しでも有意義な時間を提供できればと、限られた時間ではありましたが、6県あげて取り組んできた「登校時一声運動・アナーアップ運動」の最新状況について引き続き、情報交換しました。また今年度は大麻を始めとする薬物汚染が広がっている状況を受けて、全国高P連健全育成委員会が取り組んでいる「薬物乱用防止パンフレット」の活用方法や内容改善に向けた取組についても報告・意見交換をさせていただきました。私としては1点、気がかりなことがあります。昨年度に比して、情報交換会の参加率が低下傾向にあることです。コロナ禍でリモート会議等が当たり前となり、ますます効率・スピードが重視される時代になりました。モバイル機器の発達で、どこにいても仕事に追われる状況ですが、たまには時代の流れにあらがい、みんなで大いに語り、高P連活動をパワーアップしていく、そんな時間を過ごすことも大切ではないでしょうか？

東北高P連健全育成委員会のさらなる発展を祈ります。ありがとうございました。

委員長 葛西 孝之 (青森県：青森)

副委員長 中村 美津緒 (青森県：青森工業)

委員 小錦 真理子 (岩手県：盛岡商業)

田畑 誠 (宮城県：涌谷)

小山 正枝 (福島県：白河実業)

佐沢 かな子 (秋田県：秋田令和)

菅原 正幸 (山形県：鶴岡工業)

< 活動報告 >

1. 第1回健全育成委員会 6月14日(水)：盛岡市 ホテルメトロポリタン盛岡

2. 第2回健全育成委員会 9月1日(金)：青森市 アートホテル青森

【講話】 講師：三井住友海上火災

伊東 晃一 氏

演題 「自転車事故の状況について」

3. 第3回健全育成委員会 11月22日(金)：青森市 アートホテル青森

【講話】 講師：青森県社会教育センター

社会教育主事 今 敦子 氏

演題 「地域と学校と繋ぐキャリア教育の取組」

～地域の力で高校生の未来を拓く～

各県の委員長さん方から日頃の活動について伺いました

岩手県

『継続と新たな課題』

岩手県高P連健全育成委員長 小 綿 真理子

岩手県の健全育成委員会の主な活動内容は、「登校時一声運動・マナーアップ運動」です。各高校1年間、様々な工夫を凝らし行ってまいりました。私は、顔を合わせ挨拶することで、保護者との繋がりや見守られているという安心感が伝わってくれたら良いと思い取り組みました。忙しい時間帯なので、参加しづらいという意見もあり、保護者の参加が少ないと感じました。今後1人でも多くの保護者の方に参加していただきたく、東北の各学校との意見交換で、行事のある日の実施にははどうかなど、参考になる具体的なお提案をたくさんいただきましたので、来年度に引き継いでいきたいと思っております。各県の参加者の感想の中には、登校時の生徒の自転車のマナーについての意見もあり、今後委員会として取り組んでいかなければいけない課題の発見もあり、「登校時一声運動・マナーアップ運動」は継続していくべき活動だと感じました。



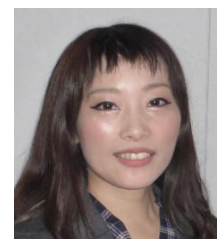
こういったPTAの活動は時代にそぐわないなど、いろいろな意見をお持ちの方もいらっしゃると思いますが、PTAとして子供達と関われるのは高校生までしかありません。私は今回このようなお役目をいただき、とても感謝しています。1年間ありがとうございました。引き続き活動を応援していきます。

秋田県

『動き出した高P連』

秋田県高P連健全育成委員長 佐 沢 かな子

今年度も残すところあと少しとなりました。早かったですね。さて、令和5年度は新型コロナの「5類移行」に伴い、“4年ぶり”という言葉があふれた1年でした。今年度活動した中で私が1番頑張った！と自信を持って言えることは何かな？と振り返った結果、高P連の活動に休まず参加した事だ！と思いました。健全育成委員長になって初めての県外での会議は緊張から始まりました。登校時一声運動・マナーアップ運動には秋田県内の多くの高校に参加していただけたし、健全育成委員で企画した研修会も大盛況大成功を感じられた事はとても嬉しかったです。この頃にはだいぶ緊張もしなくなってきました。そして、今年度新たに出会いましたPTAに関わる皆様に協力を沢山していただきました。そのおかげで今年度、楽しく過ごさせて頂いたことが1番嬉しいです。楽しい勢いは止まることはありません！来年度も秋田県は力を合わせて盛り上げていきます！



青森県

『挨拶から希望へ』

青森県高P連健全育成委員長 中 村 美津緒

先ずもって、健全育成委員会では非常に恵まれた愉快的メンバーの集まりでした。恵まれたメンバーとの活動を通して得たものは多く、その中でも最も「挨拶運動」について話し合った事が私の心に響いています。以前とは違い、元気よく声を出して挨拶する事ができ、そして顔全体から溢れんばかりの笑顔が見られ、雨後の様な晴々しさがめぐってきた学校生活へと移り変わり、私達保護者の活動も自然と、生徒を『見張る』から『見守る』へと心に変化が現れた気がするということです。そして私自身もその一人であり、「登校時一声運動・マナーアップ運動」等の活気溢れる活動を通して元気を沢山頂戴いたしました。今年度の健全育成委員会メンバーは生徒から元気な挨拶から沢山の希望を抱く事が出来たと言っても決して過言ではないでしょう。本当に実りある活動でありましたので『希望』をもって次世代へバトンをお渡したいと思っております。



宮
城
県

『 Withコロナの時代へ 』

宮城県高P連健全育成委員長 田 畑 誠

5月から新型コロナウイルス感染症が5類となり、少しは過ごしやすいい世の中になったように感じました。しかしながら、まだまだ感染対策は必要で、子供達にとっては思いっきり高校生活を満喫する事はできなかったのではないのでしょうか。

そのような状況下でも、各校PTA健全育成委員と先生方が中心となり、子供達の健やかな成長と高校生らしい生活を願い、できる限りの取り組みをしてくださいました。この紙面をお借りして、関係各位に心より感謝申し上げます。

本校では「登校時一声運動・マナーアップ運動」を「PTA朝のあいさつ運動」としてマラソン大会当日に実施。あいさつ運動終了後、マラソン大会の見学・応援が可能な形で実施しました。

また、体育祭では子供達へ労いの意を込めて飲料の差し入れを行い、文化祭では例年PTAとしても出店を行っておりましたが、コロナ禍で見直しを図り、保護者・先生方も「お客さん」として「子供達と一緒に楽しむ」という流れに現在はおななっております。

このようなコロナ禍で出し合ったアイデアを今後の活動に活かし、健全育成活動を含め、新しいPTA活動の在り方を考えていく良い機会になればと思っております。



山
形
県

『 活動を通して親子共に育つ 』

山形県高P連健全育成委員長 菅 原 正 幸

ITツールが発達している今現在、コミュニケーションの取り方が何かと話題にあがる今日この頃ですが、子供が成長するにつれ親子間のコミュニケーションも徐々に薄れていってしまっているのではないのでしょうか。どこかの講演会で、「子供が高校生ぐらいの接し方が難しい時期になると、『飯、金...』しか発しなくなる。」のようなお話を聞いたことがあります。我が家もそれに近いものがあります。

このような親子間の状態を少しでも軽減できればと思ひ、なるべく子供や学校のことを把握し、より良いコミュニケーションがとれるようになるとういう事が、私がPTA活動をしている理由の一つとしてあります。コロナがなければ、先生方や保護者の方々とのコミュニケーションも増え、子供と会話するネタも尽きなかったらうな、と振り返ります。

PTA活動を通して学校の事、子供やその友達の事を知る、また保護者間の情報共有を活発に行う、それらが親子が共に育ち、健全育成に繋がることと思ひます。



福
島
県

『 さあ、制限なしの自由な活動へ 』

福島県高P連健全育成委員長 小 山 正 枝

福島県では、昨年に引き続き「自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例（福島県自転車条例）推進会議」に県高P連も推進委員として参加し、自転車の学校における交通安全教室、自転車の点検整備及び防犯対策、安全器具の使用（ヘルメット着用の努力義務化）、特定小型原動機付自転車の新たなルール適用、保全基準への適合、自賠償保険（共済）への加入の義務付け、道路環境の整備と通学路に係る点検等について協議を行いました。また、福島県教育長に対し、「教育環境の整備」や「生徒進路実現のための支援」

「ネットトラブル・薬物の乱用・教職員の多忙化解消の取組」等を直接要望いたしました。

「登校時一声運動・マナーアップ運動」の活動を引き続き継続し、PTAが一丸となつて子どもたちの健やかな成長を支えていければと思ひます。



令和5年度「登校時一声運動・マナーアップ運動」取組状況（アンケート結果より）

1 実施校

	青森	岩手	秋田	宮城	山形	福島
実施報告校数	61	58	53	73	31	65
対象学校数	71	65	63	85	50	73
実施報告率（％）	85.9	89.2	84.1	85.9	62.0	89.0
令和4年度実施報告率	80.5	84.6	91.1	76.8	80.0	72.6

2 実施月（11月以降は実施予定校数）

	青森	岩手	秋田	宮城	山形	福島
4月	4	1	5	9	3	9
5月	17	5	12	12	3	9
6月	16	21	11	21	23	36
7月	8	7	9	18	3	14
8月	11	6	6	11	1	9
9月	13	13	17	21	5	19
10月	25	39	25	45	28	47
11月	7	7	10	16	1	18
12月	2	1	2	5	2	14
1月	2	2	0	8	1	7
2月	1	1	2	4	0	3
3月	1	0	0	2	1	0
通年	4	0	5	2	0	2

3 実施日数

	青森	岩手	秋田	宮城	山形	福島
1～3日	30	52	25	47	17	37
4～6日	19	16	16	14	9	15
7～9日	2	6	2	3	1	6
10～12日	2	2	2	8	2	3
通年・その他	5	0	6	1	1	18

4 主な実施場所

校門・昇降口周辺	57	52	50	66	29	57
通学路・学校周辺	13	16	13	18	17	15
駅・地域等	7	6	9	3	7	11
その他	1	2	2	2	0	1

5 実施時間帯

始業前後のみ	49	53	47	66	24	58
下校時のみ	3	0	1	5	1	2
始業前後・下校時ともに	8	0	4	2	4	5
その他	2	3	0	0	1	1

6 参加人数

1日あたりの人数	6.2	6.4	5.4	5.9	6.0	5.9
(令和4年度)	5.4	6.0	5.9	5.9	4.5	8.1

7 その他の協力者の参加（複数回答可）

P T A（教職員除く）	50	57	39	65	29	62
教職員のみ	58	55	19	70	29	63
生徒・生徒会	26	36	12	25	25	30
地域・近隣高校・関係機関	1	4	4	5	4	1
その他	0	0	1	2	0	0



8	上記7の 事故概要	青森県	・交差点で前方不注意の自動車と衝突し、救急車で搬送された。
		岩手県	・昨年度、自転車で走行中、後方から自動車に衝突された。1週間の入院。
		秋田県	・自転車で登校途中、坂道を下っている途中で、左の脇道から幸ていた自転車の差点と車と接触。即ち、肋骨を打った。1か日入院し、さらに1か日自宅
		山形県	・下り坂で前ブレーキが利きすぎたため、1回転して転倒。救急車を呼ぶ
		宮城県	・下校時に商業施設から出てきた自動車と自転車が衝突し、腕の神経を損傷 原因、自転車で下り坂での転倒による自損事故。右肩骨折。
		福島県	・2年前に自動車と自転車の事故で生徒が死亡。 2年前女子生徒が通学途中に転倒、頭部を強打して週間入院。歩道を走行中に本人の不注意により転倒。時の脱臼及び靭帯の断裂